



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

2008.5.14 (No.2502)

週報 No.41

第2560地区ガバナー／渡辺敏彦
 会長／荻根澤隆雄
 会長エレクト／中村和彦(クラブ奉仕A)
 副会長／菊池渉(クラブ奉仕B)
 幹事／杉山幸英
 S A A／浅野金治
 会計／山田富義

例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (〃はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押ししてください)

■本日の出席会員数:63名中45名
 ■先々週出席率:87.10%

【ビジター】

吉田RCより
 ・古井辰禧さん

【先週のメイクアップ】

- [5.10] 米山奨学オリエンテーションへ(新潟)
 ・浅野金治さん
- [5.10] 三条RC槻の森除草作業へ
 ・荻根澤隆雄さん、杉山幸英さん
 ・樺山仁さん、会田二郎さん
 ・石塚欣司さん、伊藤寛一さん
 ・熊倉博之さん、小出子恵出さん
 ・佐野勝榮さん、平原信行さん
 ・丸山行彦さん、山田富義さん
 ・若槻八十彦さん、菊池渉さん
 以上14名



「ロータリーは分かちあいの心」
 2007～2008年度国際ロータリーのテーマ



安田の「世界の洋らん展」にて⑩

会長挨拶

荻根澤隆雄 会長



ご挨拶を申し上げます。

先週の土曜日、槻の森の記念樹周り下
 草刈りに多くの方々のご参加・ご協力を
 頂き感謝を申し上げます。ありがとうご
 ざいました。

さて、本日の卓話は異例と言えれば異例
 で幹事の杉山さんがお話をなされます。
 幹事・SAAとて下命あれば気持ち良く受

けて頂けるのもロータリーの良い所でも有ります。

そして、今年度の社会奉仕事業に付きましてお願いがあり
 ます。先週の例会時に社会奉仕委員長の樺山さんよりご案内
 がありました様に6月1日の日曜日、中央公民館に於きまし
 て10:00～夕方の4:30まで通して日本の唱歌・童謡をメイン
 にジャズアレンジをして地域の子供達や親御さん達に聞いて
 頂こうという事業であります。

当年度のテーマは地域に生かされて50年を経過、その50年
 に対して「地域社会にお返しを」であります。犯罪立国化し
 ている日本の昨今ではマスコミを通じて周知の様に考えられ
 ないような犯罪、そして犯罪の低年齢化を見るに付け大変に
 殺伐とした世の中・社会に変貌致しております。その背景に
 は「日本の心が失いかけている。」そんな気がしないでもあり
 ません。日本の心とも言える『童謡・唱歌』を地域の子供たち
 を中心に市民の皆様より音楽を聞いていただき日本の心に少
 しでも触れて頂く機会を提供する事により少しでも地域にお
 返しが出来るとはとの思いであります。

本年度の社会奉仕事業のメイン事業でもあり且つクラブ全
 体としての位置付けでの事業であります。どうかこの事業を
 成功裡に導く為にも全会員の皆様のご協力が必要と成ります。

いろんな団体様よりご後援、或はご協力を頂くべくお願いをしていますが、矢張り一番の支援者は会員であります。どうか皆様から広告宣伝費としてお一人5,000円のご協力をお願い致す次第であります。宜しくお願いを申し上げます。

さて、先月の2500回例会祝いの会での挨拶に花の散る様を幾つかお話をさせて頂きました。

その続きの話になりますが、その花の散る様の形容詞を紹介させて頂きました。これを女性に例えて言いますとこうなります。

先ずはご自分の周りの女性を思い浮かべて下さい。桜の花の散る様は「舞う」ですが美人薄命、華麗な舞とでも言いますか華やか、且つあでやかに逝く様を感じます。無論ですが聡明で明るい性格も併せ持った人と感じます。

牡丹は「くずれる」ですが若かりし頃の姿形は何処へやら想像がつかない様子が見て取れます。

萩は「こぼれる」ですがいついつまでも笑顔で周りを和ませてくれるか、反対に周りに愚痴ばかりをこぼす人でしょうか、そして椿の「散る」ですが鮮やかに咲き誇って周りに迷惑を掛ける事無く潔く時を待って逝くが如し、立派で誉れある姿かなと感じます。

私は以前に好きな女優に八千草薫さんを挙げた事があります、それは今も変わってはいません。

和服の似合う女性でして女優としてもまだまだ咲き誇っており、老いてますます純情可憐なる女優生命としてのエネルギーを感じさせてくれます。

そして、昔と全然変わらなくそのままである人はいないと思いますが、若しおられればその方は生命エネルギーを持たない可哀想な造花であります。

眼を閉じてみて初恋の女性、或いは奥様の昔の容姿が浮かぶ人は現役であります。特に深い意味は有りませんが女性に寄せる思いは常に少年の様に有りたいものです。

形容として女性と言いましたが男性さえも同じ事だと考えます。生き方は自分で選べる或いは創る事が出来ます。

敢えて選ぶなら椿の様な生命力とエネルギーを感じさせ、且つ長寿のシンボルとなれば最高かと感じます。皆様はどうでしょうか!!

150歳、200歳となりましたらそれは椿寿ではなく珍事(椿事)となります。

御礼が後になりましたが、改めて2500回記念例会行事と斎藤様の受賞を祝う会に多くの会員の皆様のご協力を賜りました事に厚く御礼を申し上げます。

それと例会での挨拶の回数も残すところ片手になりました。挨拶については先輩の方々から宿題も仰せつかっておりますので、何とか全う致したいとの思いをお伝えして挨拶を終わります。

ありがとうございました。

ニコニコBOX

吉田RC 古井辰禧さん

馬場年度第四分区アシスタントガバナーを仰せつかりました。皆様方の御協力をお願いします。

荻根澤隆雄さん

大変に清々しい天気です。最高の祭りになると良いですね!!

杉山幹事ご苦労様です。

次年度第四分区AG古井様のご来会、歓迎申し上げます。

杉山幸英さん

三条祭りの晴をお祈り申し上げます。

熊倉博之さん

先週は欠席しました。西川さんの卓話聞きもらしました。残念でした。

中村和彦さん

古井様、大変ご苦労様です。

杉山さん、卓話楽しみにしています。

高森章二さん

ゴールデンウィーク、最高に楽しみました。

樺山 仁さん

杉山会員の卓話に期待して。

先日の槻の森の除草作業にご協力ありがとうございました。

石倉政雄さん

中国内陸部大地震、お見舞申し上げます。

若槻八十彦さん

三条祭りは晴れそうで良かったです。

五十嵐晋三さん

三条祭り、いい天気になりそうです。

川瀬康裕さん

学会シーズンで、久々にあちこち出かけてます。

松永一義さん

杉山さん、卓話ありがとうございました。

三条祭り、晴れそうで安心しました。

広岡豊作さん、五十嵐昭一さん、山田富義さん

石橋育於さん、熊倉昌平さん、佐藤 武さん

石塚欣司さん、会田二郎さん、高橋 司さん

浅野金治さん、丸山行彦さん、金子俊郎さん

石月良典さん

杉山幹事、卓話ご苦労様です。

楽しみにしております。

5月14日分 ￥ 28,000

今年度累計 ￥1,352,500

卓 話

雨漏りについて

杉山幸英 会員



国の見解では雨漏りとは屋根もしくは外壁から雨水が浸入しても、室内に入り込まなければ雨漏りとは言わないそうです。ですので、雨が漏っても屋根原を伝わって外に出て行けば雨漏りにならないのだそうです。外壁も同様に雨が漏っても外壁の

下を伝わって基礎の外に出て行けば雨漏りとししないのだそうです。正式な文章にはなっていますが、国の都合で変えられるような見解となっています。10年保障の中に雨漏りも入っているのですが、通常の雨漏りは保障ではなくて、不良工事になると思いますので、雨漏りはあってはならにことだと思えます。あとの雨漏りは使っているうちに破損が出たり風化して雨漏りが出てくるのだと思えます。皆さんは春になりましたら家の周りをぐるりと廻って、一番最初に痛むのが雨どいでありますので、雨どいを見て、外壁を見て、それでなんともなければ建物は大体一年は大丈夫です。

新潟県は全国的に見ても雨が深い県でございます。新潟県は日照がほぼ夏に集中しておりまして、ここ2～3年でみますと6、8、9月が日照時間が多い月になります。6、7年前までは4、5、8、9月位が多かったようですが、ここ何年かは天候の不順もありまして、日照時間は短かったようです。うちの商売をやっていますと施主さんが納期の話をする時に、着工をいつからと言うのではなく、建前をいつやるのか、引越しをいつやるのかという話の仕方をします。それで、お天気のいい時期を選んで建前、上棟式をやったほうがいいと思えますので、うちではお天気カレンダーをつけていて、過去10年のデータを持っていますのでそこからいい時期を選んで納期を決めています。このカレンダーから日照のいい時期がわかってきました。夏日照が多くて、冬が少ないですので、基本的には夏暑く、冬寒いということがわかります。そのため、この辺の家を作るには夏、風通しが良く、冬は戸をびっしり閉めたら断熱効果がある暖かい家が最適ということになります。それから、日照が少ないですのでソーラーシステムの効率は低いと思えます。新潟県は日照が少ないのですが、すぐお隣の長野県はどうかというと松本市は、日照が全国でも5番目に入るくらい日照の多い町であります。これは松本盆地という地形から雲が山にぶつかってその

山に雪と雨を降らすのだそうです。松本は日照が多いのでソーラーパネルが屋根の上にたくさん見られる町です。

屋根は色々な材料があります。小さいものは瓦、石版、萱、板、大きいものは金属板が多いと思えます。小さいものは屋根勾配が大きくなっていると思えます。大きいものは屋根がゆるくなっています。建物も野中の一軒家と、町並みの建物では条件が非常に違ひまして、町並みですと多少の工事不良があっても雨漏りはそんなにしないものですが、野中の一軒家では風が強いですので、金属板の屋根ですと降った雨の水の重さと、吹いてくる風のバランスが取れると屋根の上に水が溜まっていることになります。水の重さのほうは風より強くなりますと水が溜まって落ちてきますが、風のほうが強くなりますと雨が棟を越して反対の方に来ることになります。バランスが取れますと水が溜まっているような状態になり、いわゆる水につけているような状態になりますので長時間、続くと水が入ってくるようになります。工場団地など風にさらされているところなどは現実にそうなっていますが、風が強いときは皆さんは見れる状態ではないので、なかなかわからないのですがそのような状態になっています。サッシにしても雨、風の限度を越えると、引き違いですとレールと車の間に多少の隙間がありますので、そこから雨が入ってくるのが往々にしてあります。これはメーカーの設計限度を越えたことになるのです。これを防ぐには風を弱くするしかないのです。昔の農家などでは建物の周りに立ち木を立てて風を止めているのです。富山に行きますと杉の木を家のまわりに植えているのがみられますが、木が大きくなりすぎて今では風物詩になっています杉のボンボンを頭につけてやっていますが、基本的にはこれで風を止めたものなのです。立ち木も針葉樹ですと冬でも風除けになります。広葉樹(落葉樹)は日よけでして、夏は葉で日よけになりますが、冬は風除けになりません。風除けにはほとんど針葉樹を使っています。

外壁も直接、釘を打っているところは何年か後にはほぼ雨漏りしています。打つ釘が鉄、もしくはステンレスですので夏・冬の温度差により膨張、収縮を繰り返しますのでたとえ金属に打っても釘と鉄骨の間に隙間が空きます。特に木になりますと釘の膨張、収縮に負けますので後日増改築にお伺いすると、外壁に打ってある長い釘はほとんど黒くなって水を吸ったあとがあります。木造になりますと、外壁を打つ下地を薄い15～20mm位の板を使ひまして、皆さん長い釘を打たれるので釘がその材料を抜けてい

るわけです。鉄が膨張収縮を繰り返しているうちに外壁に雨があたり、風雨で水が溜まるような状態になるとそこから雨漏りが発生していると思います。

外壁材は国の基準で燃えない材料を使うことになっています。それに、燃えないもので腐らないためには外壁が水を吸わない材料を使うことになります。このような外壁はつるつるしている材料ですから、雨を風がどこまでも押してくれるのです。壁も縦張りや横張りがありまして、横張りですと建物の端まで風で雨が押されていくのですが途中で穴があるとそこから雨漏りが始まるわけです。縦ですと理想的にいけば雨が下までいくわけです。しかし、縦、横は流行がありまして皆さんの好みで決まってしまう。たまに斜めに張られる方もいらっしゃいますが…

外壁材は金属板、セメント系、モルタル塗り、軽量コンクリート板、ガラス…などがありますが、モルタルの雨漏りは99%ひび割れです。モルタルのひび割れで横に走っているものは100%雨漏りしていますが、縦に走っているものは水の走りがいい場合は雨漏りにいたらないものもあります。ガラスや樹脂版は合わせ目をコーキング材で抑えていますのでコーキング材の質や風化の度合いで雨漏りが発生します。ですので春一番に家の周りを点検すると思います。でも、一般の方がいたんだなと思ってから補修を始めても大体手遅れです。お医者様と同じで検診のうちは大丈夫と言われ、本当に痛くなった時は入院と同じで、できるだけ早く見つけることが大事なことは人間も建物も同じなんです。

釘の打ち方も雨漏りを防ぐことができます。外側から内側に向けて上に向くように釘を打つと水が中に入っていくにくいのですが、たいていは中に向かって下向きに釘を打っているようです。そこまで気を使っているケースは少ないようです。海岸や風の強いところなどに家を建てる時は業者も気を使っているようですが、街中に家を建てる時は穴があっても雨漏りしないことがほとんどですので業者も気を使わないようです。雨漏りは瓦が壊れたとき以外はほとんど風によるものです。屋根も大きい材料と小さい材料があり、それぞれ雨漏りに特徴があります。最近では瓦が壊れても雨漏りしないよう各メーカーも考えています。瓦の下にある下葺の表面をでこぼこにし、少しくらい当たってもつぶれないようにし、瓦を押さえるサンを打つてもでこぼこがつぶれなければ瓦が壊れても水が下葺を伝って雨漏りしないようになる構造になっています。

また、瓦にはこのあたりで多く見られる波を打った形状の瓦もあれば、平べったい平板瓦もあります。

強度的には波打っている方が強いので、同じ条件では平瓦のほうが割れてしまいます。割れてしまえば雨漏りするわけですが、幅2 cm位、厚さ3 mmくらいのテープを瓦の下にとおします。そして横桟を打ちます。横桟のためにこの紐はつぶされず、瓦がこわれた場合はその紐を伝って雨水が下までいくようにできています。瓦メーカーは瓦が壊れることを想定して瓦を作っているわけです。私も平瓦を最初にこちらで施工したときに、運が悪いことに2階の雪がその瓦の上に落ちてきて瓦が割れたことがあったのです。春になって施主さんから瓦が壊れていると連絡が入り、いってみると3 m位の幅で全部壊れていたのですが、瓦メーカーのマニュアルどおりに紐をいれて施工していましたので下には水がいていなく、全部、鼻の先に水がいていたことがありました。いろいろな研究の末に作ったものだなあと感心したことがありました。

雨が多い新潟ではありますが、雨が多いことで美人が多いわけですので、悲観せずに新潟を楽しんでいただきたいと思います。

〈社会奉仕委員会より〉

去る5月10日(土) AM7:00より榎の森、桜並木の回り除草作業を行いました。
当日は14名の会員の方々にご参加をいただき、本当にありがとうございました。

次回、第二回目は6月28日(土)に計画しておりますので、多数のご参加をお願い致します。

(出席者は週報メイクアップの欄にのせてあります)



次週例会 5月28日 会員卓話 日戸平太 会員

次々週例会 6月4日 会員卓話 (予定)

